

倫理法人会は八月が年度末、九月から新年度となります。これは、倫理運動の創始者丸山敏雄が昭和二十年九月に運動を始めたことに由来します。そのはじめに手掛けたことが「夫婦道」という論文の執筆です。『古事記』や『日本書紀』などの古典に拠りつつ、人間生活における男女夫婦両性の筋道(倫理)を確立しようと企図しました。それをより私たちの日常の実践に結び付くように著したものが、『万人幸福の栞』第五条「夫婦は一对の反射鏡」です。

『万人幸福の栞』は経営者モーニングセミナーのテキストでもあります。倫理法人会では、夫婦和合の意義や大切さやその体験談が語られ、それは、経営者の学びの場として他にはない特徴ともなっています。そうした夫婦に関する学びや実践が連続と続いてきたのは、会員諸氏の真摯な実践によってその正しさが証明されてきたからに他なりません。

『万人幸福の栞』第五条のポイントは、二つ挙げられます。一つは「すべてが、夫婦の心の一致しているかいないか、にかかっている」。もう一つは「夫婦が互いに相手を直したいと思うのは逆(さかさ)である。ただ自分をみがけばよい。己を正せばよい。その時、相手は必ず自然に改まる」です。

前者は、裏を返せば「一致しなければうまくいかない」ということになり、夫婦に関する倫理体験の多くは、「うまくいかない」、あるいは「どうにもならない状況」を脱する実践に取り組んだ結果です。うまく



自分が変わることで 道は開ける

いかない状況は夫婦や子育てなど家庭にまつわることでなく、企業での課題や問題であることも少なくありません。夫婦関係の改善と事業の発展は別ではないということは、多くの体験者が証明しています。

後者は実践しなければ、なかなか得心できないかもしれません。夫婦であれば、夫は妻を、妻は夫をどうにかして変えたい、直したいと思うものです。しかし、実践して、見事に窮地を打開好転させた人の共通点は、相手を変えようとする心を捨て、自己を革新する実践に取り組んだことです。とはいえ、夫婦の実践は体験談を聞き、心を動かされても、現実を目を向けると、「自分にできるだろうか」と感じてしまうこともあるでしょう。

創始者が亡くなる一カ月ほど前に著述した論文に、以下の一節があります。

こうした正しい夫婦—これがそのまま国生み神話における二神の夫婦生活の拡充であるが、夫の事業・研究は、いやがうえにも進み栄え、夫婦の健康はすぐれてすこやかに、子女はよく個性のままに発育する。生活のすべては明朗に、人倫の横の大きい中軸である愛の源泉として、すべての倫理はこれより生まれて、ただに一家の幸福のみではない、人生、万人幸福の甘泉となるのである。

夫婦愛和の実践は、人生を変える大きな力を秘めています。ちよつぱり勇気を奮い、出来ることから、自分を変える一歩を踏み出そうではありませんか。